

若葉区若年世代定住化促進プラン(案)に対する意見の概要とそれに対する若葉区の考え方

※ご意見については趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

No	項目	意見(概要)	若葉区の考え方	案の修正
1	案全体について	○若年世代の定住の促進は、「若葉区の総合力を高める」ことに尽きる。当プランに盛り込まれた分析・基本方、具体的方策は多面的に課題を捉え概ね妥当なものであり、そのいずれもが促進策になる。反面、総花的であり全体を通じてインパクトに欠ける。都市間競争に勝ち抜くには加えてもっとインパクトのある施策を展開することが肝要。	ご提案いただいた案も含め、予算の限りがある中で、よりインパクトのある施策を展開するよう努めてまいります。	
2		○若葉区に今住んでいる人が、「ここに住み続けたい」と思える施策がもっと必要。	若葉区に住んでいる方の転出抑制策として、「若葉区に住み続けたい」と思える施策を展開するよう努めてまいります。	
3		○評議員10名位を公募して、年に3回か～5回位開催しているいろいろな意見を出してもらおう話し合いの場を設けてほしい。促進プランを元にいろいろ解説していただきたい。	話し合いの機会を持つ代わりに、促進プラン(案)をインターネット上で公開し、意見をウェブ上に直接書き込めるようにしています。また、いただいた意見に対する若葉区の考え方を公表します。 また、区長が直接区民と対話を行う『区民対話会』を今後とも実施してまいります。	
4	施策案の提案	○「生産年齢人口の増加策」について 生産年齢人口減少の要因は、「若葉区内には仕事の場が少ない」こと。そのための対策として ①農家の耕作放棄地に野菜工場(たとえばトマトの加工場など)を誘致する。 そのために、土地所有者(農家)と企業との縁結びをするための組織を創る。 そして関係農家を「生産者組合」化して、野菜工場への原材料の供給基地とする。このことによって、雇用を創出すると共に原材料である野菜を供給することによって農業収入の増加をはかる。 ②若葉区の最大の特徴である“自然が豊かである”ことを生かして、特別養護老人ホーム等の「高齢者福祉施設」を多数誘致する。 このことによって、若者の働く職場を創出し、併せて地元食材を施設へ供給するための「生産者組合」を組織化し、関係農業者の収入増に結び付ける。	ご意見の趣旨を踏まえ、具体的方策(1)農と自然とふれあう、の中に「各種施設の誘致検討」を追記します。	○
5		○子育て世代への支援策について 子育て世代の保護者は、子どもが地域の大勢の子どもたちと交わり、のびのびと成長することを望んでいる。 そのための一助として、地域における子ども会の結成支援や活動支援を行う。 例えば、子ども会が行う廃品回収の奨励補助金を増額して活動資金の支援を行う。 また、「モデル子ども会」を指定し、そこで得られたノウハウを各地域に普及させる。 「モデル子ども会」では、前期高齢世代の活用をはかる。	ご意見の趣旨を踏まえ、具体的方策(2)子どもと地域にふれあう、の中にある「将来若葉区で子育てしたいと思える子育て施策」において、子ども会や放課後児童クラブなど学校外への活動の支援の一環として検討してまいります。 また同じく、具体的方策(2)子どもと地域にふれあう、の中に、「孫育て世代と地域の子どもが関わる機会の仕組みづくり」を追記します。	○
6		○「空き家」の活用について 核家族化の進展に伴い、地域では高齢者の死亡等による空き家が増えてきている。そこで都賀駅及びモノレール各駅周辺(駅から歩いて15分以内)の空き家を調査し、所有者の了解の下に不動産業協会等と連携して購入希望者を募集する。この場合購入者が住宅を建築したら定住奨励金(100万円くらい)を助成する。	ご意見の趣旨を踏まえ、具体的方策(2)子どもと地域にふれあう、の中に「空き家の活用」を追記します。	○

7		○経済的な問題も大事。若葉区に住むとお金がかかるとしたら、引っ越してしまう。現在住んでみて、お金がかかる部分は交通費。その負担を減らすため、子育て世帯の交通費の減免、自転車利用者への補助、学生の定期代の割引率アップ、自動車学校や、幼稚園バスを活用しての安い交通手段の確保などはどうか。今後、駐輪場を再整備するかと思いますが、高いと駐輪上の正しい利用が進まない。子育て世帯には駐輪場料金は安くしてほしい。	子育て世代の交通費負担軽減については、関係機関等と検討してまいります。	
8	施策案の提案	○現在、桜木には少なくとも3箇所にも老人ホームが建設中。いずれも51号線沿いでバス停も近く「自分の親を呼びたい」と思う施設。入居者の方にとっても徒歩圏に加曾利貝塚など豊かな自然があることは大きなメリット。HPへの区民のかたの投稿にもあったが、このような施設で働く若者に区内に住んでもらうことの方が、「転入奨励～」より魅力的と考える。施設近隣のアパートを積極的に紹介する などできたら良い。	No.4のご提案とも合わせ、具体的方策(1)農と自然とふれあう、の中に「各種施設の誘致検討」を追記します。 OB、OG住宅購入奨励金、引っ越し祝い金、住み替え奨励金など「転入奨励金制度の実施」の記載については削除します。	○
9		○区民限定のイベントとか、若葉区民パスポート(仮称)を持っていくとサービスが受けられる施設があるとか、若葉区の小中学生ならではの総合学習メニューがあるとかはいかがか。	若葉区では、在住在勤在学の方限定で「若葉区魅力再発見ウォーキング」イベントを開催しておりますが、今後も地域の活性化につながるイベントを検討してまいります。若葉区の小中学生ならではの教育はご意見の趣旨を踏まえ、プランのとおり進めてまいります。	
10		○若葉区に住んでいながら若葉区の魅力を知らない区民もたくさんいると思うので、さらに区民向けに魅力を発信していくことも必要。	若葉区の魅力について、さらにウェブサイトやイベント等を活用して情報発信してまいります。	
11		○どこかへ出かけたときに、駐輪場や駐車場を探し回らなくてもいいように、駐輪場駐車場を整備して、区内を移動しやすくしてもらえると助かる。	駐車駐輪場整備については、関係機関等と今後検討してまいります。	
12		○自然と触れ合える教育 若葉区に住んでいても、意外とそばにある自然の中で遊べていない。以前子ども会で、下田町方面に、遠足に行ったが大好評。道すがら、虫を取ったり、田んぼのお玉じゃくしをすくったりという体験は、とてもよい思い出。若葉区で育ってよかったという思いが次の世代につながる。	プランのとおり、自然と触れ合える教育を推進してまいります	
13	34～35ページ 子育て世代向け 施策について意見	○文化を生かした教育 若葉区に住んでいるにもかかわらず、加曾利貝塚のことも、御成街道のこともよくわからず、我が家の子どもは育った。若葉区の小中学校で、十分地元の歴史を学ぶ体験的教育を行って、若葉区の子どもはだれでも外から来た人に区の歴史の説明ができるようにすることが大切。	プランのとおり、文化を生かした教育を推進してまいります	
14		○転入促進のために一時的に補助金を出すことはあまり良い方法とは思えない。所帯を持ち、子育てをする上で必要なのは恒久的な援助。つまり子育てしやすい環境(待機児童が少ない、学童が充実している、など)の保障。緑豊かな若葉区ならではの子育て環境の整備を積極的に進めることを期待する。若葉区には農業関連施設(下田、富田、中田)がありますが、十分活用されているとは思えない。学校の校外学習などでもっともっと活用すべき。	若年世代定住化促進のためには、総合的な働きかけが重要だと考えております。プランのとおり、自然と触れ合える教育を進めてまいります。 OB、OG住宅購入奨励金、引っ越し祝い金、住み替え奨励金など「転入奨励金制度の実施」の記載については削除します。	○

15	35～36ページ 結婚出産世代向け 施策について意見	○子育てリラックス館のPR・イベントの充実 いいと思うが、親たちは、預けてほっとしたいので、託児を用意してのイベントが必要。	イベント実施の際には関係機関と調整します。	
16		○農ガール、農キッズの認定制度 認定する必要があるか？楽しければ継続して参加するので、いかに内容がいいかどうか。	認定制度とはせず、若葉区でおしゃれも楽しめる農業体験を提案するキャッチコピーとして、「若葉農ガール農キッズによる農に親しむ子育てのPR」として進めていくこととします。	○
17		○土日に活動する子育てサークルの立ち上げ 保育所に子どもを預けている人が休日に情報交換ができる場を作るということだが、働いている人は、休日は、家の家事もたまっているし、家族で好きなところに出かけると思うので、サークルは無理。それより保育所に通っている同志で、レジャーを楽しんだ方が、共通の話もあるしよいのではないかと？そのつながりを作るために保育所が、何らかの仕掛けを作った方がよい。	ご意見の趣旨を踏まえ、土日に活動する子育てサークルの立ち上げは削除します。	○
18		○イクメン認定制度 いらなと思う。恥ずかしいと思う人もいるのでは？イクメンという言葉に抵抗もあるかもしれない。公が認定することより、各家庭でいかに父親が子育てをともにするかである。勤めから早く帰れるように職場の改革をすることの方が重要。若葉区の事業所を啓発して、子育て支援している会社に、何かメリットを与えることから始めたらどうか。	ご意見の趣旨を踏まえ、イクメン認定制度は削除します。具体的方策(2)子どもと地域にふれあう、の施策の中にある「イクメンのための子育て環境の充実」を追記し、イクメン支援機関(NPO法人)との連携などにより、「男性も子育てしやすい若葉区」をPRすることとします。	○
19		○フレッシュグリーンカフェの設置 私は若葉区をとて気に入りしているので、若葉区についての話をほかの人と気軽にできる場があると嬉しい。計画にあったカフェがそういう場になればいいと期待している。	クラインガルテン(注 滞在型市民農園)についてのご提言と合わせ、「農業を身近に楽しむための施設」としてプランに追記し、参加の可能性を検討します。	○
20	37ページ 住宅購入世代向け 施策について意見	○市長のマニフェストにもある「そこそこ都会で、そこそこ田舎」なのは若葉区が最もPRできる部分。農地の使用規制などハードルはあるが、欧米のクラインガルテン(注 滞在型市民農園)的な施設ができると、時間をかけて出かなくても楽しめて良い。日常の延長で身近に自然を楽しめることが大切。	ご意見の趣旨を踏まえ、具体的方策(1)農と自然とふれあう、の中に「農業を身近に楽しむための施設」を追記します。	○
21		○「3世代同居等支援事業」について プランのP37、リーディング事業、①3世代近居の推進でも記述されていますが、この事業は「高齢者の見守り」対策として打ち出されていますが、これは寧ろ「定住促進事業」として推進すべきものではないか。 「3世代同居等支援事業」が計画された時点で、事前に関係部局間の協議が十分行われたとはとても思えない内容である。	ご意見のとおり、「三世代同居等支援事業」は今後、定住化促進といった面からもPRし、推進してまいります。	
22		○奨励金などは、悪くはないと思うが、その後、若葉区での暮らしがつまらなければ、転居してしまうので、いかに日常の暮らしが楽しいかが大事。		
23	○住宅購入世代への施策にある「転入奨励金制度の実施」については、一時的な効果しかなく、その方々がその後転居する可能性を考えると、税金の無駄。一時的なお金はあまり魅力がない。ずっと住んでいたいと思わせるインフラの整備にこそ税金を使ってほしい。	ご意見の趣旨を踏まえ、OB、OG住宅購入奨励金、引っ越し祝い金、住み替え奨励金など「転入奨励金制度の実施」の記載については削除します。	○	

24	37ページ 孫育て世代向け 施策について意見	○孫育てサークル 悪くはないが、遠いとサークルにいけないので、近くに一組でも気の合う「孫＋じじORばば」さえいれば、気持ち的には十分。サークルは、自発的にできないと長続かない。孫はすぐ大きくなるので継続は難しい。	ご意見の趣旨を踏まえ、孫育てサークルの立ち上げは削除します。孫育て世代を対象とした施策として「孫育て世代と地域の子どもがかかわる機会の仕組みづくり」を追記します。	○
25		○3Gカード いいと思うが、若葉区の商店街は、今一つ盛り上がり欠けるので、交通費がお得になるのが、効果的のように思う。	交通費負担軽減については、関係機関等と今後検討してまいります。	
26		○孫育て奨励金 本当に孫育てしているのかをどうやって確認するのか？何も貢献していないじじばばもいるのではない？税金を無駄使いしないような仕組みにすべき。	ご意見の趣旨を踏まえ、孫育て奨励金は削除します。	○
27	その他	○若葉区は自然豊かで交通の便もよく住みやすい環境がととのっている。高齢化社会が近づくにつれ若い世代に永住してほしい希望はみんな持っている。	—	
28		○他区に先駆けて積極的に若年世代を呼び込もうという姿勢を評価したい。	—	
29		○若年世代を呼び込むポイントは、子育てが楽しいかどうか。それは親子でお友達が見つかるかどうか、楽しく過ごせる場所があるかどうかである。楽しさが口コミで広がっていけば、若葉区には人が集まってくる。また、子育て世代以外の人たちが若い親にやさしいか、相談にのってくれるかも大事。結局、地域の力が、子育てを楽しいものにしていくということ。そのために、公民館活動、地域での活動を活発にしていくよう、市・区の職員のスキルアップが必要。	—	